

# 新美南吉と詩

Nankichi × Step

南吉の詩は童話に勝るとも劣らず魅力的。地元を中心に活躍する現代の若手作家たちと詩をコラボレーションしていきます。



おかあさんたちは  
みんな一つの、天国をもっています。  
おかあさんたちは  
ほんとの天国だとおもっていました。  
おかあさんたちは  
みんな一つの、天国をもっています。

天国

おかあさんたちは  
みんな一つの、天国をもっています。  
どのおかあさんも  
それは優しい背中です。  
どのおかあさんの背中でも  
赤ちゃんが眠ったことがありました。  
背中があっちこっちにゆれました。  
子どもたちは  
おかあさんの背中を  
ほんとの天国だとおもっていました。  
おかあさんたちは  
みんな一つの、天国をもっています。



渡邊 春菜 グラフィッククリエイター  
女性が知る女性を目指して描き続ける。イラストのみでなく、デザイン、インスタレーション、演出等幅広く活動。夫の画家くまたにたかひとアートユニットという業として全国で展示活動中。  
<http://www.creatorsbank.com/users/haruna/>

\*絵について\*  
誰もが一度は感じた事があるであろう、母親の肌のぬくもりや光の香りに満ちた、素朴なあたたかさを感じていただけたら幸いです。

## 新美南吉



にいみなんきち  
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。旧制半田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を得る。昭和18年、結婚のため29才で世を去る。

## 解説

どのお母さんも、どのお母さんも持っている背中。赤ちゃんが負ぶさって眠る母の背中。その背中を天国だ、とらえたところにこの詩の良さがある、と思うのであるが、この「天国」という題は、南吉の記憶にもないほどの遠い日に、彼の母親が旅立っていったところを暗示しているのではないかと、とも思われる。4歳の時、生母を亡くした南吉は、次の年から父のもとへ嫁いできた新しい母に育てられるのであるが、生涯生みの母への思いを絶つことがなかった。生母へ

の尽きせぬ思いは「ごん狐」「手袋を買いに」「狐」にも見ることが出来る。この「天国」はそうした母への思いを書いた代表作のひとつである。

前新美南吉記念館館長

矢口 栄 さん

解説者

半田市、知多市、東浦町の小中学校勤務を経て'04年から'11年まで新美南吉記念館館長を務める。著書「南吉の詩が語る世界」(一粒社出版部)「子どもたちに贈りたい詩」(教育出版センター)「新しい詩の創作指導」(共著・明治図書)ほか。

## おしらせ

### 新美南吉童話 春のおはなし創作展

【期間】4/27(土)～5/26(日)  
【場所】ギャラリー蔵のまち、café&shopごんの贈り物16名のアーティストにより南吉の春のおはなしをテーマにした創作展。

### あつまろう!たのしもう! みんなの南吉童話

【日時】5/19(日)13:00～16:30  
【場所】半田市福祉文化会館(雁宿ホール) 講堂  
【料金】無料  
人形劇、大型紙芝居、歌・曲・楽器で南吉ワールドを展開。子どもから大人まで楽しめる企画内容。